

【様式】 令和 5年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

学校名 (桑名工業高等学校)

(1) 目指す学校像		○ 「地域と歩むものづくり」のキャッチフレーズのもとに、人間性豊かな専門的職業人を目指し、積極的に行動できる人材を育成する学校
(2)	育みたい児童生徒像	<p>グラデュエーション・ポリシー ～身につける力～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「あいさつ・身だしなみ・きれいな学校」(桑名工業三原則)が徹底され、真摯に授業に取り組み、部活動、生徒会活動、資格検定試験などに生き活きと取り組む生徒 ○ 「地域と歩むものづくり」を目標に、本校独自のキャリア教育を通じ、自ら考え積極的に行動できる生徒 ○ 人間性豊かな専門的職業人を目指す生徒
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ デュアルシステムを通じ、教科指導とキャリア教育の充実に向けて、意欲的に取り組む教職員 ○ 失敗を恐れず常に前向きにチャレンジする姿勢を保ち続けられる教職員 ○ 生徒が興味・関心を持てる授業を展開するよう、常に研究を怠らない教職員 ○ 資格取得指導・部活動の指導や教育相談にも積極的に取り組む教職員 ○ 情報共有を行ない、学校を目指す方向を職員全体が知り、同じベクトルで向かう

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 進路実現、充実した学校生活</p> <p><保護者> 生徒の進路実現、基本的な生活習慣の確立、人間性豊かな人格の形成</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる社会性を身につけた、人間性豊かな職業人の育成</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><保護者、中学校関係者> 情報共有、連携、協働</p> <p><地域、地元企業等> 地域で活躍できる人材育成</p>	<p><保護者、中学校関係者> 本校教育活動への理解、協力、情報共有</p> <p><地域、地元企業等> 本校教育活動への理解、協力、情報共有、指導</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>社会がこれまでの安定期から変化の時代へ変わったことにより人材育成について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「自ら学ぶ努力」のできる人材を育成してもらいたい。 ○ 少子高齢化の中で若い世代にもものづくり・工業への興味を持たせる取組を積極的に実施してもらいたい。 ○ IT社会の中「正しい情報を見極める力と行動力」をもった生徒の人材を育成してもらいたい。 ○ 一つ上の国家資格取得を目指してもらいたい。 ○ 学習成果発表会を公開するなど、学校で学習している内容をもっとアピールしてもらいたい。 ○ 海外インターンシップや他校との交流など様々な経験を生徒に積ませてもらいたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>桑名工業三原則、コース選択のためのガイダンスや個人面談の実施、キャリア教育、進路シミュレーションなどきめ細かい指導は、問題行動の減少や進路実現に繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校のキャリア教育の強みをアピールする必要がある。 ○ コース選択において、興味・関心や将来の進路より友人関係を優先させる生徒がいる。 ○ キャリア探究コースの充実・発展に努める。 ○ 保護者と連携した遅刻指導の取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ○ より高度な資格へ挑戦できる指導体制の充実と部活動の活性化に取り組む。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域と歩むものづくり」に基づき、地域の思いに応じた情報発信を積極的に行い、地域から愛され信頼される学校づくりを目指す。 ○ 工作機械の進化に伴い、機械図面など二次元から三次元化へ対応する。 ○ 実習・インターンシップ・学校行事など、生徒が主体的に計画・実行できるように生徒自身が行動できるよう指導する。 ○ 本校の教育活動の先進的取組として、タブレット学習を充実させることで生徒の学習意欲を高めるとともに学力を向上させる必要がある。 ○ 生徒募集に関して、積極的な情報発信に努め、本校の教育活動を理解してもらおうようにする必要がある。 	

3 中長期的な重点目標・カリキュラム・ポリシー ～教育方針～

教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・基本を大切に魅力ある授業づくりと、桑名工業三原則の堅持に努める。 2. インターンシップ・デュアルシステムなどキャリア教育を推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現し、工業への見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う。 3. ものづくりを通じ地域社会での発展を担う職業人として、豊かな人間性を育み、生涯の見通しをもって創造的に探究できるよう学習活動の充実を図る。 4. 基礎学力の定着と向上に努め、工業高校指導者の育成に努める。 5. グローバル人材育成のため、海外インターンシップに積極的に取り組む。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「情報共有と連携」をキーワードに、チーム桑名工業で取り組む組織づくりを進める。

- 生徒と真摯に向き合い、コンプライアンスの遵守に努め、指導に専念できる明るい環境づくりに取り組む。
- 会議資料のペーパーレス化を目指し、クラウド上に資料を共有することで総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価指標

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
魅力ある授業作り・三原則の堅持	<p><1学年> 基礎学力の定着を一番の目標とし、教材研究や指導方法を工夫し、教員間で情報交換を行い授業力の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】 授業満足度調査のアンケートをとる</p> <p>【成果指標】 満足度80%以上</p> <p><コース選択> 生徒が進路実現に合致したコース選択ができるように支援します。</p> <p>【活動指標】 コースガイダンス(2回)、系ガイダンス、実習見学会(2回)、コース選択面談(3回)を実施します。</p> <p>【成果指標】 生徒のコース選択満足度100%。</p>	<p>各教科担当者と連携し、学び直しなど授業進度に取り残されない工夫を行うことで基礎学力の定着に一定の成果が見られた。担任を中心に、生徒への個別指導も積極的に行った。</p> <p>コースガイダンス2回、実習見学会2回、コース選択面談3回を実施した。その結果、生徒は、ガイダンス・実習見学を通して自分自身の進路を考え、担任と面談で話し合うことで、各自に適したコース選択をすることができた。</p>	
	<p><2学年> 教員間のコミュニケーションの充実を図り、スムーズな組織運営ができるように努める。各学期終わりに授業アンケートを実施し、満足度が目標を超えられるように教科担当者に結果をフィードバックする。</p> <p>【活動指標】 授業満足度調査のアンケート</p> <p>【成果指標】 満足度80%以上</p>	<p>普段から情報交換を行い、学年会議はできる限り少なくしたが、修学旅行などスムーズに組織運営することができた。</p> <p>アンケートの結果から、生徒は授業、学校生活にも満足度は高かった。</p>	
	<p><3学年> 満足のできる進路実現に向け、基礎学力と資格取得を奨励します。</p> <p>【活動指標】 有用な資格取得を奨励する。</p> <p>【成果指標】 履歴書の資格欄に資格を記入できる生徒の割合が100%</p>	<p>資格取得について、1・2年時に資格取得に積極的でなかった生徒がどんな資格でもいいから取得しようと頑張ったが、なかなかたくさんの資格をとることができなかった。また、資格欄に記入できない生徒が数名いた。</p>	
	<p><教務部></p> <p>公開授業、研究授業を年1回以上実施し、授業振り返りシートを活用し、教員の授業スキルアップに努めます。規律ある授業展開を促進し、どの生徒も学びやすい雰囲気をつくりたい。</p> <p><図書></p> <p>利用者への資料提供(書籍購入、相互貸借)、「調べもの、探しもの」などの情報提供の補助といった最も基本的な図書館のレファレンス業務の推進、基礎・基本分野や専門分野の書籍の充実、調べ学習に対応できる図書館として配架、蔵書冊数の充実を図ります。</p> <p>タブレット・オンライン学習に取り組むにあたって、生徒や教職員に向けた情報資源の収集・活用方法の指導及び提案を行っていきます。</p> <p>図書館を利用した授業や調べ学習、それ以外の形での授業利用に対する、資料充実及び図書館司書の支援について一層励んでいきます。</p> <p>生徒が司書室へ入室する際に桑名工業三原則を徹底させ、基本的生活習慣の確立を目指します。</p>	<p><教務部></p> <p>公開授業、研究授業を実施し、授業参観アンケートを行い、ICTの活用を含めた授業力向上のために意見交換をした。規律ある授業展開を意識し、教員相互に連携に努めた。新学習指導要領の実施にあたり、新しい評価基準の実施と見直しに努めた。</p> <p><図書></p> <p>特にタブレットを利用した図書館の授業利用に際して、書籍購入、相互貸借、新聞、インターネットなど情報源を多方面から提供し、レファレンス業務をしっかりと行いました。</p> <p>今年度のデータは下記のとおりでした。</p> <p>受入蔵書 277冊(購入 272冊、寄贈 5冊)</p> <p>貸出統計 1176冊(生徒 776冊、教員 400冊)</p> <p>相互貸借 5件(貸出 12冊 借受 64冊)</p> <p>リクエストによる書籍購入 33件</p> <p>レファレンス相談件数 8件</p> <p>授業による図書館利用件数 4件</p> <p>部活による図書館利用件数 3件</p> <p>(2023/12/27現在)</p>	
	<p><進路指導></p> <p>【活動指標】 魅力ある授業づくりのため、教材や指導法について教員間で情報交換を行い授業力の向上を図り、生徒が希望する進路実現のための学力充実を図ります。</p>	<p>社会人としてのマナーや基本的生活習慣を学校全体で共有して指導することで、良い成果を出すことができています。また、基礎的な中心とした学力</p>	

<p>【成果指標】 桑名工業三原則のあいさつ、身だしなみ、きれいな学校を堅持し、社会において大切なことであることを理解させます。</p>	<p>こがでしている。また基礎基本を中心とした学力育成と専門的な技術・技能、危険防止の姿勢等を重視した授業により、進路先となる製造業を中心とした企業の幅広いニーズに答えている。近年、本校でも進学率が微増傾向にあり、進学に対応するカリキュラム、指導体制づくりが望まれる。</p>
<p><生徒指導> 朝の登校指導において挨拶や服装指導を行い、遅刻者には理由の確認と根本的な原因の改善を促す。保護者への連絡と協力をお願いする。服装については全職員で指導する。日頃の学級活動や清掃指導を通じて学習するための環境づくりを徹底・推進する指導体制をつくる。 【活動指標】 遅刻統計を毎月公表する。 【成果指標】 体調不良以外の遅刻者数を減少させる。</p>	<p>挨拶は殆どの生徒ができている。服装はまだ注意をする場面がある。遅刻について昨年の同時期と比較して、寝坊が129→260、体調不良が67→131と倍増している。遅刻統計は各学期末のみ実施していたので、担任の先生方が現状把握と指導の参考にして頂けるように毎月全職員に公表していく。</p>
<p><保健安全部> ・保健室利用の際に挨拶や身だしなみの指導を行い、生徒一人ひとりの個性を尊重し、親切でこまやかな対応を心がけます。 ・清潔な保健室の維持に努め、生徒にも職員にも快適な室内環境を整備し、過ごしやすく働きやすい環境づくりを目指します。 【活動指標】 ・生徒をていねいに観察し、心身の早期回復を目指して適切な処置・対応を行います。 ・本校職員の健康維持のため必要な情報を提供し適切な支援を行います。</p>	<p>・挨拶や身だしなみの指導は目標通り実施できた。 ・清潔な保健室、快適な室内環境の整備および過ごしやすく働きやすい環境づくりについても目標を達成できた。 【活動指標】 ・生徒の心身の早期回復を目指した適切な処置、対応についても概ね目標を達成できた。 ・本校職員のための情報提供と適切な支援についてもほぼ目標を達成できた。</p>
<p><電気系> ・授業の教材や指導法において教員間で情報交換および相互のスキルアップをはかり職員の授業力向上を目指します。 ・電気系の資格取得を勧め、資格取得指導において情報共有をはかり職員の指導力向上を目指します。 ・生徒に対し基礎基本を中心とした学習指導に力を入れるとともに、課題解決能力の育成を目指します。 ・自立する18歳を目標に、将来困ったときに主体的に解決できるような考え方ができるように取り組みます。 ・生徒、職員が丸となって「きれいな学校づくり」をさらに推し進め、電気実習棟の整理整頓をすすめます。準備、あと片付け等の基本姿勢とともに、「あいさつや身だしなみ」など基本行動の習慣化に取り組みます。 【活動指標】 生徒の授業に対する達成感（満足度）を定期的に検証し、生徒全員が授業に対する達成感（満足度）を得られるよう努めます。 電気系実習棟の実習室および廊下における美化を徹底します。 【成果指標】 年度末における生徒の授業に対する満足度が80%以上になることを目指します。 電気系実習棟の実習室および廊下において「ちり・ごみ」がなくきれいな状況となるよう徹底します。</p>	<p>高校生活3年間で「自立する18歳」をゴールに定め、授業・実習を通して基本的な手法を身に付け、探究ができるようになること。仮説を立ててダメだったら修正をする取り組みを実施している。授業形態ではインプット型の学習展開ではなくアウトプット型の学習にシフトし、理解できたことを人に伝え、より理解を深めるとともにチームで取り組み個々の能力向上を図り、授業・実習内容の達成感を得られるように取り組んでいる。 危険予知・危険防止の安全教育の観点からも整理・整頓と清掃活動はしっかりできている。 授業・実習の取り組みから「チームで協力する」ことにも取り組み、多様な人々と目標達成に向けて協力する力の育成にも取り組んでいる。</p>
<p><機械系> ・生徒たちが深い学びを体感できる授業を実践し、手法や技法について教員間で情報を共有し、機械系教員全体の知識や技術の向上に努めます ・桑名工業三原則および安全作業を徹底することで、工業そのものの見方や考え方を涵養し、より実践的な学習活動を行います。 【活動指標】 ・ICT等を積極的に活用して視覚的な教材を提示し、より具体的に学習内容が理解できるように努めた授業を展開します。 ・実習前点呼や作業前の安全指導を徹底し、教員においても実習室の環境整備・整理・整頓に努めます。 【成果指標】 ・授業や実習でのICT活用率と生徒の授業満足度が高水準（80%以上）を保つことを目指します ・作業中の重大事故・災害ゼロを目指し、「安全で学びやすい」教育環境の実現を目指します。</p>	<p>・基礎・基本を大切にして、生徒たちが学びを体感できる授業展開に心がけ、幅広い知識を積み上げる学習ができた。また、生徒個人の能力と応用力を伸ばすため、理解度や習熟度に合わせた課題や応用問題の設定や、教員相互の科目間の情報共有など、より効果的な学習活動を進めることができた。GoogleClassroomやMicrosoftPowerPointなどのICTコンテンツを活用し、視覚的、効率的に教材を示すことで、生徒の理解度をより向上させることができた。 ・実習前の点呼や作業前の安全指導を徹底することで、危険因子の未然排除、安全作業の徹底を実践できた。その結果、「実習中の重大事故・災害ゼロ」を達成することができた。また、溶接実習において生徒・教員が防塵マスクを着用し、有害な金属ヒュームへの対策ができた。</p>

<p><1学年> ICTを活用したクラス運営と授業の展開、学年校務の効率化を実施します。 【活動指標】 G-suite for Educationを利用 【成果指標】 クラスルーム参加率100%</p>	<p>必要に応じ、課題や授業でiPadを利用できている。学校からの連絡、アンケート調査などクラスルームを積極的に使い効率化をはかることができた。クラスルーム参加率は、100%である。</p>
<p><2学年> 主体的・対話的で深い学びの中で、生徒が満足できる進路実現に向けて情報発信等で支援します。 【活動指標】 進路シミュレーション活動、インターンシップ実習体験、進路ガイダンス、3年生進路体験報告会 【成果指標】 満足度100%</p>	<p>授業や日常の会話、各種イベントを通して、卒業後の進路について少しずつ意識するようになってきた。</p>
<p><3学年> 進路選択に必要な知識を身につけるため、企業や学校研究に努め、職業理解を深める。 【活動指標】 進路シミュレーションを通じて生徒・保護者の希望に沿った進路決定を実現する。 【成果指標】 進路決定に伴う生徒・保護者との面談を通じて希望内の進路決定率100%</p>	<p>進路シミュレーションを何度か行い進路について考える時間をつくることができた。学校内での選考で希望が叶わない生徒もいたし、就職試験で残念な結果となった生徒もいた。</p>
<p><教務部> 授業時間の確保や、キャリア教育に関するより深い探究ができるカリキュラムを編成します。 <教務部：図書> 生徒の進路選択へ判断材料となる幅広い分野の資料収集、及び職業選択やインターンシップの参考となる資料の購入、地元企業の持つ技術力に関連する専門資料の充実を進めます。</p>	<p><教務部> 授業時間の確保に努め、各教科と連携してカリキュラム編成の見直しに努めました。 <教務部：図書> 生徒からのリクエストに応えつつ、専門の先生方の意見を参考にし、各業界に関する資料を購入したり、古い資料の情報更新を行うことができました。また、就職試験、資格取得及び面接に関する資料の充実を図りました。</p>
<p><情報> ・教科担当教員の授業におけるICT機器の活用率の向上、及び生徒購入iPadの使用率向上を図る。その為に、情報研修の充実と参加率100%を目指す。さらなる充実を図るために環境整備改善に努める。 ・近未来に向けた生徒の情報活用能力や主体性を持った考え方を育て、society5.0で実現する社会に対応出来る人材を育成できるよう最新情報を学校全体で共有する。</p>	<p>複数回の研修を実施し、テーマの中には最先端のICT機器の操作方法や紹介などがあり、研修参加率が大きく向上した。 本年度は大幅なシステム変更があったが、新しいことへの対応力が身につけてきた事で理解度および順応性の高さを実感できた。</p>
<p><キャリア探究部> ・1年次は、桑名工業高校成果発表会やポスターセッションを通して、地元や周辺企業の特徴等を知ること、働くことや将来の進路選択について考えさせます。 ・2年次は、特にインターンシップを通して、生徒自らが適正である職業選択について考えるための大きな機会とします。また、デュアルシステム専攻生徒に関しては、企業実習等を通して職業観の適正に加えて、知識技術だけでなく人間力の向上にも努めさせます。 ・3年次は、これまで実施してきたインターンシップ・企業実習等を通して、進路実現だけでなく生徒自身が必要な力や、社会人としての心構えを定着させます。 【活動指標】 インターンシップを充実させるものとするため、事前指導をより徹底し、生徒にインターンシップの意義を十分に理解させ、その意欲を喚起させます。体験する希望職種に対応できる企業の開拓、ならびに受け入れ態勢の調査のために、企業訪問や担当者との面談を複数回実施します。体験学習を通して、地元やその周辺の産業や特色を知り、興味関心を持たせます。デュアルシステムにおいては、更に充実させるべく新たな企業の開拓に努め、校内学習や学校行事の内容をより充実させます。 【成果指標】 インターンシップは地域産業やその特色を知り、働くことについて考える最初の一步となることから、指導の充実とアンケートによる理解度・満足度の高い数値を維持し、その結果を後の進路指導に活かします。インターンシップやデュアルシステムだけでなく、成果発表会やポスターセッションを通して、思考力や表現力などを向上させることに努め、人としての成長や正しい職業観を育成します。また、企業アン</p>	<p>・今年度も成果発表会やポスターセッション、インターンシップや合同進路説明会などを開催し、地元企業の魅力や特徴などを1社でも多く知ることができた。その結果、進路実現に向けて明確な目標を掲げる生徒も現れ、そこに向けてのセルフマネジメントも行えた。 ・デュアルシステム専攻生徒については、週2回の企業実習となったことにより、勤労観や人間性を磨くことなど、向き合い方や実習内容に対する捉え方が大きく変化し、より充実したものとなった。また、STEAMプログラム(教科横断の課題解決型学習)を実施したことにより、生徒の論理的思考力、協働性等の資質や能力の向上に努めることができた。 ・インターンシップや合同進路説明会の事前指導において、特に担任団との情報共有を密にしたことにより、指導の内容や意義を生徒たちにより深く落とし込むことができ、インターンシップでの取り組みや合同進路説明会の内容が充実したものとなった。 ・企業実習における新規企業開拓だけでなく、新カリキュラムでの「工業環境技術」や「起業工学」においても、新たに企業や大学、NPO法人と連携を結ぶことができた。このことで、本校でしか学べない授業を構築することができた。 ・成果発表会におけるインターンシップや部活動等の発表について、担当教員の創意工夫のおかげもあり、生徒たちの表現力が年々向上しているのが実感できる。また、デュアルシステム専攻生徒においては、成果発表会でのスライドやポスター</p>

ケートについても、満足度を高い水準で維持するために、その結果を生徒にフィードバックし、自身に必要な知識等に気付き、それが定着できるようにします。

セッションで作成するポスターを見える化したことにより、早い段階から構想等の準備ができたことで、内容の充実や表現力の向上に繋げることができた。

<進路指導>

【活動指標】 キャリア教育を推進し正しい勤労観・職業観の育成を目指し、豊かな人間性を育み生涯の見通しを持たせる教育を実践します。また一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる態度を育成します。

【成果指標】

- ・3年生には就職試験および進学対策としての面接指導を複数回実施します。5月に業者に委託した模擬面接指導、9月に全職員対応の模擬面接指導を実施します。
- ・2年生には12月からの「進路決定シミュレーション」の効果が認められるので、今後も早期から実施し、生徒が自主的に進路を決定する機会を与えます。
- ・1年生には入学後からコース選択の取組みにより、将来の進路実現を考えさせる機会を作ります。また、12月には職業適性検査を実施し個々の適正について学ぶ機会を設定します。
- ・特別な支援が必要な生徒を早期に把握し、該当生徒に関係するすべての職員の協力と理解を得ながら、生徒自身が進路実現に必要なスキルや方策を身につけられるよう、個別の支援策を教育相談係と連携して行います。
- ・各学年で複数回の進路講話や職業理解ガイダンス等を実施します。

活動指標の内容については、概ね計画通りに実施できた。

- ・3学年においては、就職試験直前に対面による面接指導を全職員で行った。就職では、全体の高卒求人数はここ数年間、企業側の積極的な採用姿勢もあり、バブル期並に好調だったため、生徒の希望する進路実現が概ね叶ったように思われる。進学では、微増傾向の進学希望者に対しては今後早くから学習習慣や意識づけ、進学対応のカリキュラム、指導体制づくりを計画する。
- ・2学年に対しては、成果発表会で就職内定や大学等に推薦合格した3年生の代表数名から体験談や今後の対策について生の声を聞くことや進路ガイダンスにより卒業後の就職・進学への意識向上につながった。
- ・1学年については、2学年からのコース選択を卒業後の進路もふまえて考えさせることや、職業適性検査の実施とその結果を職業選択の参考にした。また、学校行事としての進路ガイダンスで企業・学校の説明を聞くことで、進路選択の意識づけになったと考える。

<保健安全>

- ・保健室への入退室の際、社会人として望ましいマナーが身につくよう指導します。
- ・生徒との対話を積極的におこない、社会人としての資質が向上するよう指導します。
- ・感染症について正確な情報を発信し、社会人として必要な感染予防の意識を高めるよう指導します。
- ・健康チェックを毎日確実に行い、自他の健康の維持について高い意識を持たせ、集団の安全・安心を守る意識を育みます。

【活動指標】

・服装や言葉遣い、マナーや行動について正しくできるまで根気良く指導します。定着率100%を目指します。

1. 入退室の際の望ましいマナーの指導は目標通りできた。
2. 生徒との対話を通して社会人としての資質向上を目指す取り組みもほぼ達成できた。

【活動指標】

・服装や言葉遣い、マナー等の指導については概ね達成できた。

<電気系>

- ・主体的・対話的で深い学びが実現できる授業を目指して授業内容を工夫し、学年に応じた生徒の生きる力を育て、地域で活躍し地域に貢献できる人材となることを目指します。
- ・生徒一人ひとりが思考力・判断力・表現力を養い、課題を解決する力を身につけるとともに自らの個性を伸ばし、かつ多様な生徒同士が協働して課題の解決に生かせる授業環境を目指します。
- ・資格試験・検定試験の指導を充実させて合格率の向上を目指します。

【活動指標】 クラス全員で受検する検定試験や国家資格試験において、合格率を高めるよう努めます。

【成果指標】 1年生のクラス全員で受検するものにおいて、計算技術検定3級90%以上、情報技術検定3級80%以上、危険物取扱者試験乙種第4類60%以上、第2種電気工事士60%以上の合格を目指します。さらに上位の資格取得への挑戦者

授業・実習で多くの失敗をし、その原因を発見し次につなげ成功となるべく、チャレンジできる環境を整えている。系の目標である「自立する18歳」に向けて①前に踏み出す力 ②考え抜く力 ③ チームで取り組むを育成すべく教員間で共有し、教育活動に取り組んでいる。具体的には①生徒が自らやるべきことを見つけ行動する。②できないことがあれば周囲を巻き込む。③状況を分析し、目的・課題をあきらかにする。④目標達成に向けて協力する。 ことができるように仕向けている。

成果

- ①第三種電気主任技術者 1 / 5 20%
- ②第一種電気工事士 8 / 9 88%
- ③第二種電気工事士 44 / 84 52%
- ④危険物取扱者乙種四類 2月下旬受験

キャリア教育

	を育成します。	⑤計算技術検定3級 57/65 88% ⑥機械保全技能検定(電気保全)3級 1/1 100% 今後、下期(2月)に2名が受験 ⑦パソコン利用技術検定2級 14/24 58% ⑧第2級陸上特殊無線技士 3月受験(2年3組・4組)	
キャリア教育	<機械系> ・地域や社会に貢献できる人材を育成するため、生徒一人ひとりが共同・協同・協働するために必要なさまざまな力をつける授業や機会を提供することを目指します。 ・資格や検定試験に向けて補習を充実させるだけでなく、特に合格率が伸び悩む試験の合格率向上を目指します。 【活動指標】 ・工場見学や校外活動、そして系独自の取り組みの中で、生徒たちが各取り組みにおいて達成感が得られるよう努めます。 ・各種資格取得や課題解決に向けて、教員間での情報共有や指導方法の改善を行うよう努めます。 【成果指標】 危険物乙種第4類 60%合格 情報技術検定3級 60%合格 計算技術検定3級 80%合格 各種3級技能士 100%合格 機械製図検定 50%合格 パソコン利用検定 70%合格	<機械系> ・新型コロナウイルス感染拡大防止による行動制限の余波から、集団としての企業見学に対して企業側の体制が整っておらず、今年度も企業見学は実施できなかった。しかし、2年生のインターンシップや1年生の短期インターンシップを通じて、働く意義や将来の進路実現について考える機会を得ることができた。また、キャリア教育などの外部講師による講話や合同進路説明会などで生徒の進路意識の高揚や地元企業の業種や特徴を生徒に紹介し、進路選択の幅を拡げることができた。 危険物乙種第4類 13/73 17% 情報技術検定3級 22/75 29% 計算技術検定3級 68/76 90% 機械加工技能士3級(各種) 13/15 80% 機械製図検定 15/57 26% パソコン利用技術検定3級 53/71 72%	
	<生徒指導>挨拶・身だしなみ・きれいな学校を維持し、校内全域で学年・科を超えての指導をするために職員間の共通理解を図る。生徒自ら積極的にマナーや清潔な頭髪を含め身だしなみに気配りできるよう、声掛けをしていく。社会人として必要なマナーを身につけさせる。	身だしなみはまだ注意が必要である。職員室入室時だけでなく授業始まりに身だしなみを整えさせる習慣付けをさせていきたい。多くの先生が頭髪指導に来て頂き現状の共通理解はできている。頭髪ルールが緩くなり長髪で清潔感がない生徒が増えているので、今後は、ルールとは関係なく頭髪を清潔に保てるように指導をしていきたい。	
海外インターンシップ	<国際教育>生徒の国際的視野を広げるとともに、グローバルな舞台で活躍する人材を育成します。 【活動指標】 海外インターンシップや留学を実施する。 【成果指標】 2名以上を目指す <図書> 海外インターンシップに関連する書籍の充実を進めていきます。 <全体>積極的に海外インターンシップの情報を提供する。ICTを活用し海外企業との高校との連携を試みる。 【活動指標】 経験者や工業教育研究会・三重県教育委員会等での情報を提供し、情報共有に努め効果的にPRする。企業と共同での短期海外インターンシップの開拓。 【成果指標】 毎年2名以上の参加を目標。	2020年の「海外スタディinVietnam」として①経済成長を目のあたりにする ②社会課題が「自分ごと」になる ③現地での課題対応能力が向上④帰国後の報告発表会開催など主体的かつ積極的に異文化に接する態度を身につけるとともに広い視野を持ったグローバルな人材として成長することを目的とした海外インターンシップを実施する直前、世界的な新型コロナウイルスにより中止となり、今に至る。今後、新たに実施するかを含め検討課題である。 <図書> 海外インターンシップに関連する書籍を就職コーナーに加えました。手にとって見る生徒はいましたが、貸出には至りませんでした。	
改善課題			
・iPadを活用し、生徒の興味関心を引き出すことで 基礎学力を向上 させる。 ・指定校推薦大学の拡充や総合型選抜での入学を目指すなど、進学希望者への進路指導体制を充実させる。 ・頭髪服装指導のルールが自主性を重んじるものになったことを受け、 清潔感を意識した頭髪服装 を生徒自身ができるように指導を徹底する。また、 時間を守ることの徹底により遅刻や途中退室を減少 させる。 ・資格取得への指導体制を見直し、 資格試験合格率を向上 させる。			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報共有と連携	<p><1学年> 学年団や関係部署との連携をはかり、日常のコミュニケーションの中で情報共有できるように心がけます。</p>	<p>朝の会議や普段のコミュニケーションで情報共有を積極的に実施している。教科や分掌との連携も行い、情報共有することができた。</p>	
	<p><2学年> 各部署との連携をはかり、教職員間のコミュニケーションと情報共有を大切にします。</p>	<p>普段から学年や教科、分掌と連絡を取りあい校務をスムーズに行うことができた。</p>	
	<p><3学年> 進路実現に向け保護者との連携を密に行います。 関係部署との連携を図り、情報共有や教職員間のコミュニケーションを大切にします。 面接指導の時間を大切に複数回に渡り関わってもらいます。</p>	<p>進路について保護者との連絡は密にとることができた。また、関係部署との連絡・情報共有もうまくできた。面接指導もたくさん実施していただきました。</p>	
	<p><電気系> ・校内グループウェア、系会議を利用して情報共有・交換をすすめ、系内における問題点を全職員で共有し、協力して課題解決にあたります。 ・教員個々の特技と知識を活かし、これを皆で共有してスキルアップを目指します。そして経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。 【活動指標】電気系職員の授業や資格指導に協働して取組み、教員相互間の連携に対する達成感を高めるよう努め、生徒のゴールは「自立する18歳」を最高目標となるべく職員間連携して取り組みます。 【成果指標】日常の業務を通して「気付いたこと」を職員間で共有し改善に取り組み修正し生徒に還元評価する。</p>	<p>実習の休憩時間、教科の空き時間を使って情報共有を実施し、生徒の様子・授業展開等教員間で共有を図っている。 資格取得等、放課後に実施していることに関しては教員の協力体制ができており、生徒のスキルアップ・教員間のスキルアップになっているし、改善活動にもつながっている。このことは職務の効率化にも寄与している。</p>	
	<p><機械系> ・系会議等において、教員間の意見交換や情報共有を積極的に行うことができる話しやすい環境をつくり、課題解決に向けて実践しやすいよう協力・協働に努めます。 ・各実習における生徒の安全確保に努めます。 【活動指標】 ・機械系教員が授業も含めた新たな取り組みを行い、その情報や結果そして課題についても共有します。 ・各実習で生徒情報を共有し、工作機械の少しの不具合についても意見を交換することで、事故・災害・問題行動の未然防止を図ります。ものづくりマイスターの先生方にも意見を求め、複数の目で安心安全の確保に努めます。 【成果指標】 ・系会議を含め情報共有や教員間連携の場を積極的に設け、今後の指導等の充実に繋がります。 ・年間を通して重大事故や災害ゼロを目指します。</p>	<p>・系会議を原則、学期に1回は行うようにし、さらに必要に応じて臨時の会議を行った。そしてデスクネットの回覧を使って情報の共有を積極的に行った。そのことで、生徒情報や実習設備の状態等の共有を図り、積極的な意見交換や指導方法を、横への繋がりとして共有し実践へと繋ぐことも出来た。 ・実習作業中の重大災害件数 ゼロ。特に実習前点呼において、安全指導だけでなく社会人になっていく上で必要な教養、そして今後の人生を考えるきっかけを与え、「聞く姿勢」を身につけさせた結果として重大災害ゼロに結びついたと考えている。さらには実際の作業現場での安全の取り組みを情報共有して職員間に周知させることも上記の重大災害ゼロに結びついたと考えられる。</p>	
	<p><保健安全> ・学校医と連携し生徒の健康状態や健康上の課題、学校環境について情報交換を行い生徒や保護者にフィードバックします。 【活動指標】 ・学期当初に学校生活への順応が心配される生徒についてはできる限り保護者を交えて情報共有をおこない、家庭との連携を密にして確かな支援が行えるよう取り組みます。 ・生徒の健康に対する意識を高め必要な情報を提供するため定期的に保健だよりを発行します。また職員を対象とし緊急時の対処法等について研修会を実施します。 【成果指標】 ・毎日1回保健だよりを発行します 年に1回程度 職員対</p>	<p>・学校医との連携、生徒の健康状態や課題についての情報交換、および生徒や保護者への情報のフィードバックについては概ね達成できた。 【活動指標】 ・学校生活への順応が心配される生徒の保護者を交えた情報共有、および家庭との連携については目標通り達成できました。目標とした支援についてもほぼ達成できた。 ・生徒の健康に対する意識高揚と情報提供のための保健だよりの発行は目標の回数を達成しました。職員を対象とした研修会は、AED講習を実施し</p>	

<p>情報共有と連携</p>	<p>母体は団体様により先行し、下は全担任、職員対象に研修会を実施します。</p> <p><生徒指導> 生徒情報を共有しやすい環境にするため、生徒指導室の雰囲気作りに努める。問題行動や事故等が発生した場合は、情報を共有して、学年・系・分掌と連携して指導できる体制作りに努める。</p> <p><総務> 報道機関への資料提供 【活動指標】 ・資料の提供については透明性をもって対応に努める。 ・本校の活動がより多くの報道機関に取り上げられるよう、安心メール、Google classroomなど活用し、保護者・地域住民への情報提供に努める。</p>	<p>た。今後は、全職員の危機意識高揚につなげていきたい。 【成果指標】 ・保健だよりの発行、職員対象の研修会の実施は目標を達成しました。</p> <p>多くの先生に生徒指導室に来て頂き生徒の情報共有ができています。</p> <p>透明性を持った資料提供に努めることができた。「安心メール（後半はすぐー）」「Google classroom」などにより、保護者への情報提供に努めた。</p>
<p>総勤務時間の縮減</p>	<p><学校全体> 設定した日の定時に退校できた教職員の割合・・・90% 予定通り休養日を実施できた部活動の割合・・・100% 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合・・・85% 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数・・・0人 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数・・・0人 1人当たりの月平均時間外労働・・・26時間以下 1人当たりの年間休暇取得日数・・・17日以上</p> <p><1学年> ・普段のコミュニケーションを活用して、担任会などの会議を最小限に控えます。 ・お互い年休が取りやすいように協力し合います。 ・副担任とも連携を取りながらHR活動を行います。</p> <p><2学年> ・普段から情報共有をしっかりと行い、学年会開催を最小限にします。 ・総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境を作ります。 ・副担任とも連携し、HR活動を分担して行います。</p> <p><3学年> ・進路決定の為の情報共有を密に実施します。クラスルームなどの掲示板など利用し最新の情報を提供できるように工夫します。 ・副担任と連携を取りながら学級運営を円滑にし、幅広く柔軟な学年経営を実施します。</p> <p><機械系> 授業や実習方法や内容、さらには機械系内における業務を効率化し、情報を積極的に共有することで、教員の負担を軽減し、勤務時間縮減や「休みやすい」「働きやすい」職場環境を目指します。 【活動指標】 機械系関係施設の環境整備、教材・資料の整理と共有、機械系内業務を担当者だけに頼らず分散化し、協力・協働の実践に繋がります。 【成果指標】 機械系全教員の総勤務時間縮減</p> <p><電気系> 経験や知識を共有できる職場環境をつくり業務の効率化をはかります。そして業務の効率化を実現して労力を軽減し、</p>	<p>R4 82% → R5 85% R4 98.8% → R5 99.2% R4 76% → R5 100% R4 13人 → R5 5人</p> <p>R4 49人 → R5 37人 R4 18時間 → R5 16時間 R4 14.6日 → R5 15.7日</p> <p>目標は達成できない取り組みもあったが、会議時間等の削減により、全体に効果があったと考えられ、継続していく。</p> <p>・空き時間を利用して、情報共有を常時行っている。 ・互いに休みやすい雰囲気を心がけている。 ・必要に応じて副担任の先生の協力を得ている。</p> <p>普段の連絡を密にすることで、学年会などを最小限にすることができた。 学年団で仕事を分担することで、年次休暇をとりやすくする工夫をした。 副担任とも連携して業務を行い、クラス活動を実施することができた。</p> <p>クラスルームを活用して生徒にできるだけ多くの情報を提供できた。副担任の先生方も協力的で円滑に学年経営できた。</p> <p>特に資格試験の対策およびとりまとめについて効率化し、その成果を来年度以降に活用できる体制を整えた。また、情報を共有しやすい雰囲気や環境づくりを心がけることで、各教員の業務に対しての行き詰まりや負担を共有し、その課題についてよりよい解決に向けた協力体制を築くことができた。各種委員会の構成員は、可能な限り機械系職員に分散することで、業務の集中を避けるよう努力した。</p> <p>授業・実習に関して経験や知識が活かせる取り組みと、お互いにサポートすることでスキルアップする環境ができています。</p>

総勤務時間の縮減	<p>総勤務時間の縮減を目指します。</p> <p>【活動指標】電気系職員が業務の効率化と勤務時間の縮減が実感できるよう互いに協力して取り組みます。</p> <p>【評価指標】業務の効率化と勤務時間の縮減に対する電気系職員の達成度の向上を目指します。</p>	<p>このことは効率化と勤務時間縮減につながっている。</p>
	<p><総務部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料作成などの事務仕事において、全員が協力する体制を作る。 ・職務の円滑な運営を実現するため、部内の情報共有を密にする。データファイル等の所在を明確にし、いつ・誰が欠勤しても仕事を継続して行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料作成及び記録について、全員で協力して行うことができた。 ・部内の情報共有を行うように努めたが、詳細になると担当者にはわからない点もあった。その解消のための方策を考えることが今後の課題である。
	<p><保健安全部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部の分掌業務を公平に分担し特定の職員に負担が偏らないようにします。職員相互の信頼関係を密にし、互いに連携して業務を効率的に遂行します。 ・業務を計画的に行い事前の準備を周到にして時間に余裕を持った業務展開することで、過重労働が無いよう取り組みます。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部職員の対話や情報共有を密にして連携協力して業務に取り組み、一人ひとりの総勤務時間を縮減します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部の業務の公平な分担についてはほぼ目標が達成できた。職員相互の信頼関係と連携および業務の効率的な遂行についても概ね達成できた。 ・業務の計画的な準備、時間に余裕を持った業務展開および過重労働の防止についてもほぼ達成できた。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部職員の対話と情報共有、連携協力、一人ひとりの総勤務時間の縮減についてもほぼ達成できた。
	<p><教務部></p> <p>各係の業務を相互に連携・協力し、職務にかかる時間の削減をはかります。また、業務の円滑な運営および停滞を避けるために情報共有をはかり、相互にコミュニケーションが取れる雰囲気づくりを目指します。</p> <p><教務部：図書></p> <p>利用者情報において、貸出返却処理のバーコードでの管理を徹底し、速やかに対応できるようにします。</p> <p>学校図書館及び学校図書館司書の資質向上を目的とした研修へ積極的に参加し、スムーズな図書館運営を目指します。</p>	<p><教務部></p> <p>教務部の部員数が減っていく状況にある中で業務内容を精査し、職務にかかる時間の軽減に努めました。相互にコミュニケーションがとれる雰囲気づくりを目指し、お互いが助け合うことで、職務にかかる時間の削減に努めました。</p> <p><図書></p> <p>利用者情報の管理を徹底し、速やかに対応ができました。</p> <p>全国および三重県学校図書館協議会や学校図書館司書部主催の研修、また校内研修に積極的に参加し、知識の習得だけでなく他の先生方との情報共有ができ、結果的にスムーズな図書館運営に繋がりました。</p>
	<p><生徒指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容を精査、簡素化し部員減少にも柔軟に対応出来る体勢を整える。部の連絡はホワイトボードや普段の会話を利用し、部会の回数、時間を抑えます。 ・係分担を行い、特定教員に負担がかからないようにします。また、互いに抱えている仕事を理解し合い、協力し合える雰囲気を作ります。 	<p>仕事内容の簡素化に努めているが、入室届・遅刻届などの対応が多すぎて、生徒が下校するまでは部員の負担がかなりある。途中退室・遅刻を減らそうと、生徒に指導するが、減っていない現状である。そこに特別指導が加わると部員に余裕がなくなるので、生徒対応にミスが起きないように、早急に良い方法を見つけ改善する必要性を感じている。</p>

改善課題

・時間外在校等時間の主たる要因は部活動指導である。複数顧問配置により、ローテーションで指導できる体制の確立とともに、効率の良い練習や休むことがけがの予防につながるなど意識改革による練習時間の縮減を実現する必要がある。

・年度当初に実施したアンケートで「風通しの良い」職場・人間関係ではないと回答した方がいた。そこで、1年間に2回全教職員参加によるコンプライアンス研修や分掌ごとでのミニコンプライアンス研修を複数回実施し、コンプライアンスの徹底とともに教職員の交流を図った。今後も「風通しの良い」職場・人間関係づくりをしていく必要がある。

・遅刻や途中退室生徒が急増し、生徒指導部の業務負担が増加した。来年度は生徒指導部の人員を増やして負担軽減を図る。

5 学校関係者評価

明らかに変わった

- ・身だしなみを整え、時間を守ることは社会人としてのマナーであり、指導を徹底してもらいたい。
- ・進路決定は大切であり、就職試験・大学入試で合格を勝ち取れるように基礎学力の定着、資格取得に力を入れてもらいたい。

改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集に関して、資格の凄さや指定校で大学にも進学できることをもっと伝えるべきである。 ・保護者の学校教育への興味関心を引き、協力を得ることがより良い学校教育につながる。 ・工業教育を基本から徹底することが、社会へ出てから役に立つので、しっかり指導してもらいたい。 ・「地域と歩むもの作り」に基づき、地域と連携した取り組みをしてもらいたい。 ・生徒が主体的に計画・実行している取り組みを増やしてほしい。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・桑名工業3原則に加え、時間を守ることを徹底し、専門的職業人を育成する。 ・SHRやLHRの時間に基礎学力定着の取り組みを行うとともに、資格取得指導を充実させ、合格率、合格者数を増加させることで、自ら積極的に行動できる人材を育てる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みを積極的に中学校へ発信し、桑名工業の魅力・特色をアピールすることで入学定員を充足させる。 ・HPの更新やメールによる学校情報の発信を積極的に行うとともに、保護者への連絡を密にすることで連携・協力し、保護者とともに生徒を育成していく体制づくりに取り組む。